

ゲーテンターク お元気ですか ドイツ営業所です。

夜間外出禁止、飲食店は全面休業、多くの小売店舗での買い物はアポを取って訪問、など引続きかなり厳しい制約の続くドイツです。騒いだ若者4万円、マスク無しの歩行者5千円など実際に罰金が科せられます。Macのドライブスルーは大人気で、コロナ以前は待つことなどほとんど無かったのですが、20台くらい並んでいることも珍しくありません。

コロナ対策はすべて州政府と都市の権限で発令されます。（連邦政府と州政府についてはまたご報告いたします。）各州ごとに制限が出され、飲食店が営業 OK となったミュンヘン、ホテルに泊まるにはコロナ陰性証明が必要なところ、など国内でも感染者比率で対応は細かく分かれています。但し、基準ははっきりと示されていて、それを決めるのはメルケル首相と連邦政府、実行責任は各州の州首相と自治体という役割分担は明確です。国家的緊急課題として与野党でその是非や速度を問う政争は全くといっていいほどありません。

ワクチン接種率が5割を超えた英国では、感染者の減少は明確で、飲食店も通常営業再開、マスク着用の義務も解除されたと聞きます。研修を受けたボランティアに注射する権限が与えられ短期間での接種が可能になったそうです。以前私も足を骨折してギプス固定した際、カルシウム剤を薬局で購入して毎日自分で注射するように言われ、処方箋で購入して自分で注射したのです。テレビドラマの麻薬中毒者みたいなシーンですが、ホントの話です。医療行為に対する考え方の違いですね。日本では歯医者さんによるワクチン注射でさえ専門外として許可されない様です。厚労省も過去の薬害訴訟のトラウマからワクチンの認可に消極的です。いろいろと理由や事情はあると思いますが、海外から日本を見てみると、こうすれば、ああすればといろいろ思ってしまう。

ワクチン開発には動物実験、臨床試験、後遺症や副作用の有無と程度の分析などを経て認可まで10年かかるというのが医学の常識とされていました。なぜ1年で有効とされるワクチンが出来たのでしょうか？簡単に言えば遺伝子操作の産物だそうです。

ワクチン接種で効果が確認された実例がある一方、将来の副作用の可能性は否定できません。ワクチン接種を受ける、受けない？ 皆さんはどうされますか？少し長くなりましたが、ワクチン接種に限らず、自分で調べて自分の考えを持つことが大切だということをお伝えしたかった次第です。

ロックダウンの続くドイツではホテル宿泊はビジネス、あるいはトランジットなど必要性のある滞在しか許されていません。会社が作成した証明書、取引先とのアポを証明するメール、トランジットであれば航空券や列車チケットなどの提示を求められます。実際に警察による宿泊者のチェックがあり、違反にはホテルも罰金が科せられるので予約があっても上記のような必要性を証明できない場合、宿泊を断られます。さらに2週間以内のコロナ陰性証明の提示を条件にしているホテルも増えています。コロナ話題一色になってしまいましたが、そんな中4月中に仕事で出かけた二つの都市の風景をご紹介します。いずれもフランクフルトから北へ300kmくらいのところにあるオスナブリュック、ゴスラーという小都市(次ページをご覧ください)です。ドイツの雰囲気をお届けできれば幸いです。



Osnabrück



Osnabrück



Goslar



Goslar